
東北大学陸上競技部

OB・OG 通信

2018年 No. 2 (2018.6)

- ・ 第二回仙台大競技会
渡邊 朝美(M2)が女子砲丸投で10m57の部記録!
- ・ 第71回東北学生陸上競技対校選手権大会
男子 10000mW 寺島智春(2)、男子 10000m 齊藤寛峻(D3)、男子棒高跳 高橋昇之(4)、
女子 200m、女子 400m 佐貫有彩(3)、女子 1500m 上條麻奈(3)の5名が全日本インカレ
出場権を獲得!!

・ 東北学連春季競技会	2 ページ
・ 宮城県春季陸上競技大会	2 ページ
・ 平成 30 年度第一回部員総会	3 ページ
・ 第 71 回東北学生陸上競技対抗選手権大会	3～13 ページ
・ 自己ベスト更新者	14 ページ
・ 今後の予定	14 ページ
・ 編集後記	14 ページ

向暑の候、会員の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。今号では、第71回東北学生陸上競技対抗選手権大会の結果を中心にお伝えします。

◎東北学連春季競技会(4/7～4/8)

…弘進ゴムアスリートパーク仙台

シーズン初戦のこの競技会には多くの選手が出場し、各選手健闘しました。出場選手が多かった種目を中心に結果の一部をお伝えします。

◆男子 100m

1組(+1.8)	宮崎幸辰(M2)	2着	10"70
3組(+6.4)	芦田周平(2)	2着	10"78
3組(+6.4)	白鳥海知(4)	5着	10"96
3組(+6.4)	大衡竜太(5)	6着	11"05
4組(+2.5)	古川楓(4)	5着	11"45
4組(+2.5)	平井景梧(3)	2着	11"23
6組(+5.8)	倉田真樹(3)	4着	10"97
8組(+4.2)	山下一也(4)	1着	10"84
8組(+4.2)	高須秋(2)	3着	11"16
14組(+2.4)	井戸端佑樹(2)	3着	11"32
15組(+1.3)	鈴木健太(2)	1着	11"54
16組(+0.4)	山田将斗(3)	1着	11"50
19組(+0.2)	佐藤泰河(2)	4着	11"77
20組(+1.5)	清水大地(2)	1着	11"83

◆男子 400m

1組	水戸部慶彦(4)	2着	49"88
3組	川口航汰(4)	1着	50"52
3組	岩波発彦(4)	6着	51"79
4組	加地拓弥(2)	2着	51"34
5組	田口開斗(2)	5着	52"08
5組	川島啓(2)	7着	52"80
6組	角田陽(2)	2着	52"94
7組	山田球児(3)	8着	54"18
13組	小林丈士(2)	3着	55"77

◆男子 800m

1組	川口航汰(4)	1着	1'57"98
〃	荒田啓輔(4)	2着	1'58"91

〃	佐藤宏夢(4)	4着	1'59"79
2組	宇梶和希(3)	2着	2'01"74
〃	細田健斗(3)	3着	2'04"55
3組	清野雄太(4)	1着	2'01"22
4組	川島啓(2)	4着	2'07"24

◆男子 5000m

1組	松浦崇之(3)	2着	15'16"87
	立野佑太(3)	6着	15'27"18
	齊藤寛峻(D3)	8着	15'39"54
	脇田陽平(3)	10着	15'50"79
	本田雄生(M2)	19着	16'16"48
2組	田沼怜(2)	1着	16'04"35
	上條広裕希(4)	6着	16'28"65
	三浦慧士(2)	13着	16'43"39
	長田公喜(3)	15着	16'47"01

◆男子 10000m

1組	松浦崇之(3)	1着	31'50"67
	脇田陽平(3)	4着	32'06"33
	本田雄生(M2)	7着	32'42"37
	嶋田拓郎(3)	8着	32'42"74
	早坂謙児(M2)	15着	33'48"14
	三浦慧士(2)	19着	34'40"37

◆男子 3000mSC

1組	立野佑太(3)	4着	10'05"57
	木村秀(2)	9着	10'21"36
2組	田沼怜(2)	3着	10'08"08
	吾妻祐介(5)	11着	10'53"36

◎宮城県春季陸上競技大会(4/21～4/22)

…ひとめぼれスタジアム(利府)

この大会は宮城県陸協に登録している選手しか出場できないため出場者は限られていましたが、各選手健闘が見られました。東北大学からの入賞者を紹介します。

◆男子走幅跳

高橋昇之(4)	7m16	3位
藤井大輝(4)	6m20	6位

◆男子 400mH

井戸端佑樹(2)	56"90	5位
----------	-------	----

◆男子 4×100mR

白鳥(4)-芦田(2)-山田(将)(3)-倉田(3)	4位	42"12
----------------------------	----	-------

◆女子棒高跳

佐久間美帆(2)	2m40	6位
----------	------	----

◎平成 30 年度第一回部員総会(4/28)

・片平さくらホール

4月28日、片平さくらホールで平成29年度第一回部員総会が行われました。

佐藤会長、彦坂副会長、吉田監督から挨拶がありました。

平成28年度活動予定の報告などの後、新入部員の紹介が行われました。最後に、出席してくださった先輩方より一言ずついただきました。

◎第71回東北学生陸上競技対抗選手権大会(5/17～5/19) ・ひとめぼれスタジアム(利府)

対校結果は、男子総合3位、トラック3位、フィールド5位、女子総合3位、トラック5位、フィールド3位でした。全日本インカレ出場者がのべ6名輩出された他、多くの種目で入賞し、各選手健闘しました。各選手の結果とその様子を紹介します。

男子 100m 予選

1組2着 芦田周平(1) 10” 86(+1.2)

スタートで脚を蹴りよろける。しかし、その後順調に中間疾走で伸び二着でゴール。

2組2着 宮崎幸辰(M2) 10” 97(-0.2)

スタートは少し出遅れを許すも、中間で後れを取り戻し2着でゴール。

4組2着 白鳥海知(4) 10” 92(-0.5)

スタート及び加速はとてもスムーズだった。その流れで中盤からピッチ、ストライドともに大きく伸びることができていた。フィニッシュ直前、顎が上がり重心がずれ脚を前で捌ききれなくなり2着でゴール。

男子 100m 準決勝

2組2着 宮崎幸辰(M2) 10” 96(-1.2)

5年連続の決勝進出を果たした。尻上がりに調子を上げて、勝負強さを発揮。

3組4着 白鳥海知(4) 11” 14(-1.4)

スタートが非常に良かった。しかし、中盤から硬さが見られ、伸びが物足りなかった。後半徐々に抜かれていき4着でゴール

男子 100m 決勝

3着 宮崎幸辰(M2) 10”78(-0.2)

好スタートを見せ中盤まで主導権を握る。しかし、後半失速し、連覇はならなかった。

女子 100m 予選

3組6着 佐々木千肅(4) 12”99(0.0)

スタートの反応が悪く、遅れをとってしまった。身体が早くに起き上がり、中盤の

加速も弱いまま、スピードにうまく乗ることができなかった。6位でゴールした。

男子 200m 予選

3組3着 大衡竜太(5) 22”82(0.0)

スタートはやや抑え目に入った。いつもよりカーブをうまく走れていなかったが、直線に入ってからギアを上げ、無難にまとめ、3着で予選を通過。

4組3着 宮崎幸辰(M2) 22”84(+0.6)

スタートダッシュに成功。100mに備えて後半は流し3着でフィニッシュ。

5組5着 白鳥海知(4) 22”71(+0.3)

前半は大きな走りで力を貰っていたが、後半顎が上がりはじめ脚も後ろに流れてしまっていた。5着でフィニッシュ。

男子 200m 準決勝

1組5着 大衡竜太(5) 22”81(-0.2)

予選をふまえて前半からスピードを上げ、レーンの内側を走っていた。しかし直線に入ってから力みが見られ伸び切らず5着に終わった。

2組4着 白鳥海知(3) 22”52(+0.3)

前半大きく走ることができていたが、もっとスピードが欲しいところである。後半はピッチこそあがっているものの重心が後ろになり完全に力を貰えておらず4着。

3組3着 宮崎幸辰(M2) 22”27(+0.9)

準決勝もスタートダッシュに強さを見せた。前日までの疲労を振り切って決勝進出。

男子 200m 決勝

8 着 宮崎幸辰(M2) 22"42(+0.7)

決勝もスタートを決めるが、後半失速し2014年以来の優勝とはならなかった。

女子 200m 予選

1 組 5 着 佐々木千肅 (4) 27"57(-0.4)

前半のカーブでの加速でうまくスピードに乗ることができず、直線に入るところでの切り替えも不十分であった。後半はピッチが落ち、少し減速したまま5位でゴール。

2 組 1 着 佐貫有彩(3) 25"80(-0.6)

スタートでやや出遅れる。コーナーで大きな走りをし、徐々に差を詰めていく。コーナーを出る辺りで一つ外の選手に並ばれるが、コーナーを出る際にかわし、そのまま流して1着でゴール。

女子 200m 決勝

1 着 佐貫有彩(3) 24"84(+2.3)

予選でのスタートの出遅れを修正し、スタートでうまく加速する。コーナーで外レーンの選手と差を詰めていき、コーナーを出るところでトップにたつ。そのまま後続を引き離して1着でゴールした。

男子 400m 予選

3 組 5 着 田口開斗(2) 52"69

入りの100mはゆったりと加速。力はいまよく抜けていたが、150m付近から徐々にピッチが落ち、200mを通過した後もスピードを切り替えられず徐々に失速し、最後は5着でゴール。

4 組 2 着 水戸部慶彦(4) 49"33

前半は力みが少なくリラックスして入った。その分後半までピッチは落ちなかった。しかしコーナーに入り、相手選手と並んだところで力んでしまい、2着でゴール。

男子 400m 決勝

7 着 水戸部慶彦(4) 49"28

レベルの高いレースで外側の選手に引張られるように、前半から飛ばして入った。しかし後半は疲れが見え、300m付近から

徐々に失速してしまい前に置いていかれるように7着でゴール。

女子 400m 予選

1 組 1 着 佐貫有彩(3) 58"55

スタートはやや出遅れるが、バックストレートで前の選手を追い上げる。300のコーナーを出るあたりでトップにたち、そのまま余裕をもってフィニッシュ。

女子 400m 決勝

1 着 佐貫有彩(3) 56"53

最初の100で前のレーンの選手に先行されるが、落ち着いたスタートをする。250m付近で外レーンの選手をかわし、300付近で4レーンの選手と並ぶ。ラスト50m付近から内側の選手と差が開き、そのまま逃げ切り1着でゴール。

男子 800m 予選

1 組 1 着 川口航汰(4) 2'01"44

ブレイクしてそのまま先頭に出る、250m地点で一人の選手に抜かれそのままその選手の後ろに着く、500mでスパートをかけ再び先頭へ、そのまま逃げ切り1着でゴール。

4 組 2 着 佐藤宏夢(4) 2'02"57

スタート後落ち着いてブレイクし、4番手につける。集団の外側を走りつつラスト400mで順位を1つあげ3番手に。ラスト300mから徐々にペースをあげると、後続を引き離し、前の二人と横並びになりながら余裕を持ってゴールした。

男子 800m 準決勝

1 組 2 着 川口航汰(4) 1'58"77

ブレイク後先頭に出る。そのまま集団をひいて400mを通過。500mから徐々にスピードを上げていき750mまで先頭を維持するが、最後に内側から一人に抜かれ2着でゴール。

2 組 2 着 佐藤宏夢(4) 2'01"38

ブレイク後先頭集団の後ろに着き余裕を持って300mを通過。300m~400mで徐々に集団の前に出ていき、450mで先頭の選手

と並ぶと、500mでスパートをかけて一気に集団から飛び出した。そのままラスト 50mまで先頭で走るが最後に 1 人に抜かれ 2 着でゴールした。

男子 800m 決勝

2 着 川口航汰(4) 1'55"47

ブレイク後 3 番目の位置につける。300m地点で前の選手を抜き 2 番手へ。そのまま先頭の選手を追いかけ、650m付近から徐々に差を詰めていくが追い付くことができずに 2 着でゴールした。

4 着 佐藤宏夢(4) 1'56"31

ブレイク後先頭集団の後ろに着き、300mで選手を一人抜き三番手に。そのまま二番手の選手の後ろに着き先頭の選手を追うが、700m付近で前の選手から離れてしまい、750m付近で一人に抜かれ、4 着でゴール。

女子 800m 予選

1 組 3 着 上條麻奈(3) 2'22"07

後方からスタートし、接触が多い中で 3 番手をキープした。600m で切り替え、ラストは楽にゴールした。

1 組 6 着 加藤ひより(2) 2'26"43

ハイペースなレースの出だしで最後尾につき、1 周目を 70 秒で通過する。2 周目で 2 人を抜くが、ペースが落ち前に大きく離され 6 着でゴールした。

2 組 5 着 星屋美優(4) 2'31"33

先頭集団のペースにつかず、5 番手で 400m を 71" で通過。500m でペースを上げ、600m 付近で 4 位の選手をかわす。その後再び抜かされ、ラストはペースが上がらず、5 着でゴールした。

女子 800m 決勝

3 着 上條麻奈(3) 2'14"98

入りの 400 はゆったりしたラップで入った。後方からだったが 2 周目に入り先頭の 2 人につくが、600m 地点で離されそのまま 3 番手でゴールした。

男子 1500m 予選

1 組 1 着 荒田啓輔(4) 4'11"73

序盤、位置取りで 3 位につく。1 周目は 70 秒とスローな入りだったが、2 周目以降は 1 周あたり 66 秒までペースアップ。ラスト 300m は 48 秒まで上がり、最後の直線で先頭まで出て、一位でゴールした。

1 組 4 着 三浦慧士(2) 4'13"57

スタート後集団前方につける。最初スローペースだったことから集団になったが、300m あたりからペースが上がり縦長になる。その後徐々に遅れる選手がいる中、先頭やや後方の位置をキープして 4 着でゴールした。

2 組 1 着 松田将大(4) 4'08"51

スタートと同時に集団前方に着いたが集団にポケットされて 500m 通過で集団最後尾に押し出される。そこから再び徐々に順位を上げ、2 番目に着いて 1000m を 2'51 で通過。ラスト一周は先頭がペースを上げたためそれについていき、ホームストレートで先頭を刺しつつ組 1 着でゴール。

男子 1500m 決勝

2 着 荒田啓輔(4) 4'02"38

位置取りでは 3 位につけた。1 周目は 63 秒と速かったが、その後ペースが落ち、集団の密度が上がり、走りづらい印象だった。ラスト 500m で一旦先頭に出るも、後続のペースアップで仙台大成田が先頭になり、ラストおよそ 350m のスパートになる。ラスト 200m カーブの入りで抜きにかかるが抜ききれず、最後の直線では残り 50m でスタミナが切れ、躲すことはできなかった。

3 着 松田将大(3) 4'03"13

予選とは変わって、ゆったりと集団後方からスタート。2 周目から徐々に集団のペースが落ち始めたのに合わせて集団前方に着く。1000m 2'47 で通過した後、一度先頭に出たものの、更に外側から前に来た 3 人に走路を塞がれてしまい、5m ほど離れた先

頭をラスト 300m から追い始める。一度は先頭に追いついたものの、ペースを維持する先頭について行くことができずにラストの直線で離れて 3 着でフィニッシュ。

11 着 三浦慧士(2) 4'14"03

スタート後出遅れ集団の後方につける。予選よりもハイペースな展開に対応できず追いかける展開になる。追いつくことはできず、次第に離され 11 着でゴールした。

女子 1500m 決勝

1 着 上條麻奈(3) 4'38"04

9 着 飯田夏生(4) 5'07"20

14 着 加藤ひより(2) 5'06"93

上條は、スタートから縦長の先頭集団の中盤でレースを進める。無理には前につかず、600m を通過してから徐々に順位を上げ、残り 250m で先頭に立つとそのままゴールした。

飯田は、スタート後集団の中盤に着いたが、徐々に先頭集団と離れてしまい、第二集団の先頭を走る、100m 手前付近で第二集団から抜けだし先頭集団から落ちてきた選手を抜いていき 9 着でゴールした。

加藤は、スタート後から集団の後方を走り、中盤まで前の選手につく。ラスト一周で前方の選手と競り合うも順位が変わらないまま 14 着でゴールした。

男子 5000m タイムレース決勝

2 組 11 着 本田雄生 (M2) 15'58"16

序盤は福祉大の選手が先頭を引っ張り、本田も先頭集団についていく。1000m 過ぎから本田は先頭のペースについていくことができなくなり、先頭集団から離れてしまう。その後、再びペースを上げることはできず中盤から終盤にかけてズルズルと順位を落とす。結局、本田は組 1 1 位、全体で 14 位という結果に終わった。

男子 10000m 決勝

1 着 齊藤寛峻(D3) 32' 06" 63

6 着 脇田陽平(3) 33' 49" 50

松浦崇之(3) DNF

スタートから松浦が先頭で集団を引っ張り、脇田や学院大勢がこの集団についていく。齊藤は後方から落ち着いたスタート。3000m 付近で松浦に付いていく選手はいなくなり、その後は松浦が先頭を独走。齊藤は徐々に順位を上げ中盤は単独 2 位でレースを進める。脇田はペースを落としながらも中盤は 8 位付近で粘りの走り。終盤、松浦は依然先頭を独走。優勝は間違いないと思われたが、暑さの影響で脱水症状を起こしてしまい、8000m 付近で蛇行し始め、残り 2 周で倒れこみ途中棄権となってしまふ。結局、終始マイペースを崩さず 2 位でレースを進めていた齊藤が 1 位でゴールし優勝。脇田も中盤以降タイムは落とすが粘りの走りで 6 位でゴールした。

男子 110mH 予選

1 組 3 着 勝井友樹(4) 15"56(+0.3)

スタートから 3 台目まではうまく加速にのれ、ハードリングもスムーズ。後半インターバルのスピードが伸びず、3 着でゴール。着差ありの同着で決勝逃す。

2 組 4 着 楠木啓介(M1) 15"94(+1.2)

隣のレーンと一台目から離されてしまった。その後もインターバル間の走りがよくなく、後半差を縮めようとするも埋まりきらず、4 着でゴール。

3 組 3 着 羽根田佑真(M2) 15"53(+1.4)

申請タイムで組 2 番手ということもあり、落ち着いた得意のスタートを問題なく決めた。しかし、4 台目で若干浮いたかと思うと、5 台目くらいから一人横に並ばれ、抜かされ 3 番目に。いつもなら焦って力んでしまう場面だが、冷静に走りを崩さないよう我慢できていた。10 台目を越え、持ち前のスピードで追い上げるも、追い付けず 3 着フィニッシュ。幸運にもプラスで決勝へ。

男子 110mH 決勝

8 着 羽根田佑真(3) 15"68 (+1.1)

スタートは悪くなかった。前半は 5 番手争いをするも、5 台目を越えたあたりから周りの選手においていかれがちになり、追い打ちをかけるように 8 台目で抜き足を盛大にぶつけてしまい、無念の 8 着フィニッシュ。後半に課題が残る試合となった。

女子 100mH 決勝

5 着 泉屋咲月(2) 16"26(-0.2)

1 台目の入りはまずまず。前半は比較的勢いのあるハードリングができていたが、6 台目あたりから失速する。インターバルで腰が落ち、足が後ろで回ってしまっていた。なんとか 3 歩で走りきり 8 着でゴール。走りどハードリングの流れを良くすること、後半の体力強化が課題である。

男子 400mH 予選

1 組 1 着 加地拓弥(2) 54"74

怪我明けで走り込みが不足していたり大会直前に体調不良を起こしたりと不安要素が多い中臨んだ。前半は体力を温存する走りをしたが体力はそれほど落ちていなかったため後半からギアを上げ、54.74 の 5thPB で 1 着でフィニッシュ。

2 組 5 着 沼田亮介(4) 58"84

1 台目の入りが不安であったが、練習に比べ良い感じで入ることができた。5 台目までインターバルは詰まり気味ではあったが、しっかり前半からスピードに乗ることができた。しかし、後半は失速し、10 台目を越えた後もスピードが完全に落ちた状態でゴールした。それでも大学ベストが出たのは、悪天候を覚えていないほど集中してレースに臨むことができたためと思われる。

3 組 6 着 井戸端佑樹(2) 55"80

前半は予定通り 15 歩のインターバル。ただ 5 台目で脚が合わず 16 歩を使用し、ここからは無我夢中で走り跳べる脚で跳ぶという乱雑さが見られた。ただし後半はいつ

もより落ちることなく 55.80 の大幅 PB。

男子 400mH 決勝

3 着 加地拓弥(2) 53"33

前半から突っ込む意識で臨んだ。1、2 台目の加速局面でスムーズなハードリングでスピードを上げていき、3 台目から 5 台目の直線はスピードを殺さず良いリズムで走れた。これにより、6 台目からの第 3 コーナーでギアを上げてスピードの落ち幅を減らすことができ、9、10 台目を初めてタッチダウンタイム 5 秒台切りで走ることができた。2 年ぶりの PB となる 53.33 で 3 着。

8 着 井戸端佑樹(2) 58"94

疲れも少しはあったが前半はいつもの通りの入り。後半も以前よりも落ちることなく 5 番手でホームストレートへ。10 台目で何とか歩数を減らそうと攻めた結果、抜き足をひっかけ転倒。54 秒台が出ていたレースであったため悔やまれる結果になった。今レースはで、後半にて必要以上に歩数が増える場面が多く見受けられた。

女子 400mH 予選

1 組 4 着 佐貫有彩(3) 1'07"38

2 台目で足が合わず、スピードが上がらないままバックストレートを走っていく。5 台目を越えた辺りで 2 つ内側の選手に抜かされ、300m 通過時点で全体の 4 番目。ホームストレートでも足が合わず、そのまま 4 着でゴール。

2 組 5 着 柄澤菜々美(2) 1'14"77

1 台目までで上手く加速し、2 台目ではむしろ詰まって調子良くカーブを迎えるも 7 台目から大きく疲れる。踏み切りは近く、迷いすら出た。後半のスタミナ切れの原因は前日の日光対策不足と言える。

男子 3000mSC 決勝

8 位 木村秀(2) 10'00"18

14 位 田沼怜(2) 10'20"81

序盤、先頭は大集団で、木村と田沼も先頭集団の中でレースを進める。1000m 過ぎ

田沼が一度先頭に出るものの、その後ペースが上がり東北大の二人はペース変化に対応できず先頭集団についていけない。終盤もズルズルと順位を落とし結局木村が8位、田沼が14位でゴールした。

男子 10000mW 決勝

- 1 着 寺島智春(2) 44'01"61
2 着 中川岳士(M1) 44'11"73
9 着 森 渉(M1) 50'11"22

天候は曇り、気温も高くなく予想されていたものよりも良好なコンディションでレースは行われた。

寺島はスタート直後から飛び出し先頭を一人で歩いた。最初の400mを1分34秒、1000mを4分08秒と速いペースで入る。この時点で後続の岩手大の集団とは20秒近い差ができた。その後も寺島は1km4分25秒前後のペースで進め、岩大との差は縮まることなく9000m付近で38秒の差をつけた。その後、岩大のエースがペースアップして追い上げるも追いつかれる心配はなく余裕の1着フィニッシュ。この種目は過去18年間岩大が優勝し続けており、寺島はその連勝記録をストップさせたことになる。また、寺島はこのレースで無注意と、フォーム面でも際立って良い成績だった。

中川は当初、岩大の集団と歩き後半で抜け出す予定であったが1000mを4分15秒で入ると、岩大の選手はついて来ず、単独2位の状態で歩を進める展開となった。寺島同様にその後は4分25秒前後で進め、後続との差をジワジワと広げていった。注意を多く受けたために後半は無理に寺島を追わず、後続との差を上手く保ちながら、最後の岩大の追い上げをかわし2位でフィニッシュした。

森は入賞を目指し、序盤は福島大の2人と9位集団を形成し前を追いながら歩を進めた。3000m付近で福島大の1人がペースを上げ、森は離されてしまう。その後森は

単独10位となり1km5分前後のペースで歩きゴール。途中前を歩いていた選手が失格となり、順位は9位と繰り上がった。

女子 10000mW 決勝

3 着 青木まひろ(1) 55'46"94

曇り空で気温も高くなく、風もないという良好なコンディションの中でレースが行われた。

スタート直後に福祉大と岩手大の選手がハイペースで飛び出すも、青木は惑わされずに400mを2'13で入り後方集団からレースを進めた。その後集団がばらけて1人になるも、入りのペースを保ち1キロ5'30~40と安定したラップを刻んだ。先頭とは200m前後の差のままレースを進めるうちに、前方の選手の失格により単独4位に浮上、更に6000m付近で落ちてきた選手を捉えて3位に浮上した。その後も前半とほぼ変わらぬ安定したペースで歩き、そのまま3位でフィニッシュした。

大学初出場、加えて10000m初レースながらも終始安定したペースと崩れないフォームでレースを進めた結果の好記録となった。これからも自己ベストや部記録更新がおおいに期待されるだろう。

男子 4×100mR 予選

1 組 4 着 42"09

白鳥(4)-芦田(2)-山田将(3)-倉田(3)

1 走白鳥はスタートの反応が良く、しっかりスピードに乗れていた。コーナリングも問題なく、外側レーンの選手に引き離されることなく2走の芦田へ。

芦田もいつも通りの力強い走りでも外側の選手との差を詰め3着で3走の山田将へ。

山田将は少し硬さがあったが、持ち前のコーナリングのうまさでもうまく修正し4走の倉田へ。

倉田は前半うまく抜け出すも後半は少し力んでストライドが落ちた。4着でゴール。

男子 4×100mR 決勝

8 着 41"91

白鳥(4)-芦田(2)-山田将(3)-倉田(3)

1 走白鳥は予選同様スタートでいい反応を見せた。周りのレベルが高い中、引けを取らない走りでもいい流れを作った。

2 走の芦田もこれまでの疲れを感じさせない力強い走りでどんどんスピードに乗り外の選手に追いついた。3 走の山田将も予選での走りを修正し良い走りを見せる。この時点で 6,7,8 着が横並びに。

4 走の倉田も予選よりいい飛び出しで一時は前に出るも、やはり力の差が見え、後半抜かれてしまい、8 着でゴール。

女子 4×100mR 決勝

6 着 50"27

柄澤(2)-佐貫(3)-泉屋(2)-佐々木(4)

1 走 柄澤：勢いよくスタートする。50m 付近で内側の選手に抜かされてしまうがなんとか粘り 2 走にわたす。

2 走 佐貫：スタートで出遅れ、バトンが思いっきり詰まってしまう。内側の選手を一人かわし、余裕をもって 3 走にバトンパス。

3 走 泉屋：2 つ内側の八戸学院に追い越されるが、自分の走りをし、次にバトンを繋ぐ。

4 走 佐々木：スタートでうまくダッシュし軽い走りを見せる。前にいる八戸学院を追うが届かず 6 着でゴール

男子 4×400mR 予選

2 組 2 着 3'20"88

水戸部(4)-井戸端(2)-加地(2)-羽根田(3)

1 走は水戸部。流石といえる圧巻の走りで 200m 地点で周りのチームを置き去りに。ラストも力強い走りで、岩手大とほぼ同時に 1 着でバトンパス。

2 走は井戸端。持ち前のスピードを生かしきれず、バックストレートで岩手大に大きくリードを許すも、ラストは粘りその差を埋める。しかし埋めきることはできず、若干離れて 2 番手でバトンパス。

3 走は加地。体調不良が心配されたが、終始安定した走りであった。200m を過ぎたあたりで後続に大きく差を詰められたが、得意のラスト 100m で再び突き放す。先頭と差は変わらないままアンカーへ。

4 走は羽根田。最初の 100m で一気に先頭に追い付くと、バックストレートでは前にぴったりくっつき、そのままラストまで離されず、しかし抜けず、ほぼ同着で 2 着。

男子 4×400mR 決勝

5 着 3'17"49

白鳥(3)-水戸部(4)-羽根田(3)-加地(2)

1 走は白鳥。前半からしっかりスピードにのれており、300m 地点まではいい流れできていたが、最後の直線で内側の岩手大に抜かれる。ラストが苦しい走りとなったが、それでも 4,5 番手でバトンパス。

2 走は水戸部。始めのコーナーをゆっくり入ったかと思うと、バックストレートのブレイクで 2 チームの間を強引にすり抜け、3 番手につける。前との差は大きくなったものの、後ろは 6 チームが固まった状態でホームへ。1 チーム横に並ばれるも、2 走の維持を見せ、3 番手でバトンパス。

3 走は羽根田。前についていく対象がないという不得意な状況ではあったが、バックストレートでもしっかりスピードをあげた。後ろに差を縮められるも、順位は譲らず、そのまま 3 番手でアンカーへ。

4 走は加地。同日 400mH で大幅 PB を出した勢いで、バックストレートもスピードにのっていたが、400m のチャンピオンに 200m 地点で抜かれた。また 250m 地点でももう 1 チームに抜かれ、5 番手でホームへ。得意のラストで 4 番手の背中を捉えるも、抜くことはできず、5 着でフィニッシュ。

女子 4×400mR 決勝

5 着 4'03"37 部記録!

泉屋(2)-佐貫(3)-柄澤(2)-上條(2)

1 走は泉屋。前半は流れよく走れてはいたが、若干の力みが見られた。周りが速いことも相まって後半は粘りが見られず、他校に大きくリードされ7番でバトンパス。

2 走は佐貫。苦しい状況ではあったものの、流石 400m チャンピオン、バックストレートで一人抜き去り、勢いは留まらずにもう一人抜き、さらに差をつけて次走者へ。

3 走は柄澤。体力面よりも、全体的にスピードが足りていない感が否めなかった。200m 過ぎあたりで2チームに抜かれ、徐々に差を広げられる。ラストもたれたわけではなかったがやはりスピード感がなく7番手でアンカーへ。

4 走は上條。前と大きく離れた状態であったが、自分の走りを確実にし、ピッチが全く落ちないまま徐々に前と差を詰め、ラストで一人抜かして6着でフィニッシュ。

男子走高跳 決勝

3 位 山下一也(4) 2m03

全体的に動きがあまり良くなく、特に踏切までの5歩、内傾での走りが安定しない試技が多かった。

1m90,1m95は1回目でクリア。2m00の1回目は踏切で重心が下がりすぎたため潰れて失敗。2回目は内傾の走りを意識して跳躍を行ないクリア。2m03の1回目はピークが手前に来て失敗。2回目は内傾での重心が高くしっかり踏み切れず失敗。3回目は内傾で重心を落としつつ加速でき、踏切は体がまっすぐ乗らず良くなかったがクリア。2m06の1回目は内傾で重心が少し上がりしっかり踏み切れず失敗。2回目は踏切準備が遅れた。3回目は、助走は良かったが、踏切が少し耐えきれず高さがわずかに足りず失敗。

失敗試技が多く、特に内傾で体が浮いて

しまう跳躍、踏切動作への入りが遅れ踏切姿勢が作れない跳躍が目立った。内傾・踏切準備を安定させるといった技術面の改善が必要である。

12 位 渡辺智輝(3) 1m75

1m70は助走も踏切も合っており、1回目でクリア。1m75は助走が詰まったものの、踏切がしっかりとでき、1回目でクリア。1m80の1回目は踏切で腰が乗らず流れる跳躍となった。2,3回目は曲走がしっかりと走れず、踏切姿勢へ運ぶのが遅れてしまい失敗。

14 位 高橋潤(2) 1m75

1m75の1回目は踏切が潰れ気味になり、失敗。2回目はピークが合わず、足が引っかけてしまう。3回目でクリアするも直線部分の動きが固くなっていた。

1m80は1,2回目ともに踏切1歩前でブレーキをかけてしまう癖が出て踏切にうまく持っていけなかった。3回目は高さはあったがピークが手前になり失敗。

全体的に直線部分で頑張りすぎて動きが固くなるが多かった。

女子走高跳 決勝

3 位 中村真璃子(4) 1m55

1m45からスタート。練習跳躍で1m45を引っかけしており、不安が残る中での試技であったが、1回目でクリア。1m50の1回目は助走が安定せず失敗し、2回目は助走の曲線部分の走りを意識して、クリア。1m55も1m50と同様な跳躍で2回目にクリア。1m60では1,3回目は内傾が甘く、しっかりと重心を落とすことができなかった。2回目は3回の中では1番良い跳躍であったが、上に上がりきれず失敗。助走が安定せず、内傾が甘かったのが今回の敗因であるように見えた。

男子棒高跳 決勝

1位 高橋昇之(4) 4m70

4m40○ 4m50○ 4m60××○ 4m70×○
4m80×××

4m40 からスタート。15.7-160 のポールが使えており、高さを出せる調子であった。4m60 の 1,2 回目は幅が合わず失敗。3 回目はバーが揺れたが何とかクリアした。4m70 はポールを 15.7-165 に変えて挑んだ。1 回目は幅が出ず失敗。2 回目でクリア。4m80 は大学では未だ跳んだことのない高さであり、気持ちが引いてしまったようで、惜しくもクリアできなかった。しかし、試技差で優勝となった。4m 後半になると 15.7-165 や 15.7-170 のポールを使えるかどうかことが重要となる。そのためにも踏切までの流れと踏切動作の改善が必須である。

5位 藤井大輝(4) 4m20

3m90×○ 4m00○ 4m10○ 4m20○
4m30×××

十種競技の 1 日目と被る日程の中、上手く試合運びができていた。PB である 4m20 を 1 回目でクリアしたところまではよかった。4m30 の 1,2 回目の際、棒の立ちすぎで流れる跳躍になったが、棒の変更を決断できなかった。結果、3 回目は 1,2 回目と同様の形で失敗してしまった。棒高跳の知識を増やすことで判断できるようになるだろう。

6位 赤星栄治(1) 3m90

3m70,3m80,3m90 は 1 回目で跳んだが、4m00 は、1 回目は駆け抜けて 2,3 回目は棒が立たず競技終了。身体の調子は良さそうであったが、3m90 以降、踏切が間延びしていた。4m00 になると助走も崩れ跳躍に持っていけない結果となった。精神面に左右されず安定した助走をできるようになることが今後の課題である。

女子棒高跳 決勝

3位 佐久間美帆(2) 2m40

2m30○ 2m40○ 2m50×××

2m50 の試技に入ってからには高さを意識してしまい助走から力んでしまった。空中動作も振り上げができずに終わってしまった。踏切のメリハリと腕をしっかりと伸ばすという動作が全助走でもできるようになることが今後の課題である。

峯村遥香(1) NM

いつもより柔らかいポールを使用。右手の握りの甘さを改善し、ぶら下がりほうまく出来ていた。しかし、振り上げのタイミングが全体的に遅く、一番良かった 3 回目の跳躍も踵がバーに当たった。助走では腰が入っておらずスピードに乗れていなかった。また、リード足を斜めに引き上げており、体が回転してしまっていた。

男子走幅跳 決勝

8位 高橋昇之(4) 6m78 (+0.9)

棒高跳の競技時間の遅延があり、時間が被ったため 3 本目から跳躍。

3 本目で 6m78 を跳び 7 位でベスト 8 進出。4~6 本目は記録が伸びず、8 位だった選手に抜かれ 8 位となった。

棒高跳終了から急いで行ったので疲れがあった。助走は無理やりスピードを上げる意識だったが、スピードはそこまで出ていなかった。4 月の試合で 7m を超える跳躍ができていたので悔やまれる記録であった。

14位 古俣諒大(2) 6m50 (+1.2)

久々の試合であったが調整を上手く行ない、3 本ともバテることなくいつも以上に走っていた。

1 本目ファール：空中動作と着地が上手くいかなかったが踏切 2 歩前の感覚が良く、思ったより距離が出ていた。

2 本目 6m50：1 本目から助走距離を 30cm 伸ばすもなお詰まり合わせたような跳躍に。
3 本目ファール：2 本目から 10cm 伸ばすもまたしてもファール。風が回っていたことを考慮しても助走の安定感がなかった。

20位 増野巽哉(2) 6m31 (-2.0)

1,2 本目はスピードを意識して助走したところ、踏切で潰れてしまった。3 本目は高さは出たが、踏切前に減速したことで出た高さであり良いとは言えない。試合前は高さスピードを両立した跳躍ができていたにも関わらず、本番ではできなかった。

女子走幅跳 決勝

渡邊朝美(M2) NM

3 本とも同じように 1cm 程度のファールで記録なし。助走終盤のピッチアップとストライドが安定しないことが原因である。

男子三段跳 決勝

15位 佐藤大斗(1) 13m07 (+0.4)

1 本目は 13m07 であり、ホップステップジャンプの形は出来ていたが、ステップが少し力任せで、助走も全力ではなかった。

以降の跳躍では助走距離を伸ばしスピードを上げたが、2 本目は助走で力み過ぎて体が前傾しステップで潰れてファール。

3 本目は力まず自然にスピードを上げられたが、ステップのタイミングがずれた上に腰も乗らず潰れてファール。

ホップで巻いた脚のステップへ繋がる動きを改善する必要がある。

17位 須郷大地(2) 12m68 (+0.7)

1 本目は助走が練習通りにできず、迷いを持ったまま踏み切ってしまった。結果、スピードも出ず、ステップで前傾し、ジャンプで距離を出すことができなかった。

2 本目は助走を上手く修正でき、踏切までテンポアップしていったのは良かったものの、またステップで前傾してしまい、ジャンプで潰れ、距離を伸ばせず。3 本目は踏切で後傾しすぎてしまい、跳躍にならず。

女子三段跳 決勝

6位 渡邊朝美(M2) 10m71 (-1.0)

1 本目は動きが小さく伸びがない跳躍であった。2 本目は助走からステップまでは比較的流れが良く、今回のベスト記録とな

った。3 本目以降はステップに入る際に軸が作れない跳躍が多く、更にジャンプで完全にブレーキをかけてしまった。調子が悪くならただけに悔やまれる結果である。

男子砲丸投 決勝

7位 楠哲也(3) 11m18

全く練習せずに臨んだが、案の定記録は散々であり、1 投目は人生初の 10m を切る投擲であった。2 投目以降も調整はしたが、砲丸の突き出し角度と実際の射出角度に大きなずれがでる投擲であった。決勝には進んだものの、学校の授業の為 4 投目以降はパスした。

9位 佐藤雄也(M1) 9m56

今シーズンに入るにあたって取り組んでいるものの、未だに下半身を使いこなせていない投擲が全般であった。そして、パワーポジションを変える練習に集中していたためか、グライドが本来の 3 拍子ではなく 2 拍子の形に悪化したことで最大限の加速を得られずに記録が伸び悩んだ。

1 投目は投擲動作に勢いが感じられなかった。2 投目は形よりも速さを意識して投げたが、最後に両足で踏み留まらずに前へ出てしまいファール。2 投目のファールでリズムをやや崩してしまったのもあるが、3 投目では突き出しの瞬間に雨で少し滑り、力を入れきれずにショート。2 投目のようなファールは稀にあるので、ファールを防ぐための技術も身に付ける必要がある。

女子砲丸投 決勝

3位 田中紀香(1) 9m98

姿勢を低く保つことができなかった。筋力、瞬発力の低下を感じた。基礎体力を戻しつつ、動きを細かく分けて技術練習をしていきたい。

4位 渡邊朝美(M2) 9m76

全体的に投げ急いでしまい力を伝えきれない試技が多かった。後半の試技にかけて記録を伸ばすことができたのは収穫である。

しかし修正できた試技ではファールしたりと、練習不足・技術の不安定さが露呈した。時間を見つけて練習を積みたい。

男子円盤投 決勝

6位 楠哲也(4) 36m12

1、2 投目は円盤が右に流れてファール。3 投目は落としに行き行ってファール。決勝に進んだ。以降は1、2 投目と同じように円盤の扱いに苦しみ記録は伸びなかった。

14位 嘉津山拓登(2) 24m99

1 投目:練習投擲からのファールにより思い切りの良い投げが出来ず腕も上がらない力のない投げになった。

2 投目:1 投目の反省を生かし脚の蹴りと腕の振りを意識したが体が開くのが早くファールになった。

3 投目:記録を残すことを意識し、おきにいったため思い切りのない投げになった。

まとめ:結果として練習投擲からの失敗、また体の開きが早すぎる点を改善できなかった。課題として脚の使い方や体の開きを意識する傍ら、練習においても1 投目からしっかりと投げられるよう変化していくべき。

女子円盤投 決勝

7位 田中紀香(1) 30m33

体の動きが小さくなっていた。意識せずに出来ているべき基本的な動作に乱れがあり、振り切りに集中できなかった。基礎的な動作の確認をドリル等で行っていききたい。

男子ハンマー投 決勝

6位 野尻英史(4) 36m47

試合前から調整不足が叫ばれており、公式練習でもとても万全といえるコンディションとは言えないことが見て取れた。

第一投は回転数を二回転に落としての投擲であった。置きに行く第一投としてはまずまずの記録だった。第二投は三回転にして投擲したが、バランスを崩し、記録には

つながらなかった。この時、左手の薬指を負傷したことが後々の投擲に響いた。

三投目以降は三回転で記録更新を狙ったものの、調整不足によるターンの不安定さと左手のけがによって記録は伸びず、結局一投目の記録が試合結果となった。

順位は6位と申請記録的には順当であったが、試合内容には改善の余地が多かった。以降の対抗戦に向けて奮起を期待したい。

男子やり投 決勝

11位 新出悠介(3) 46m93

1 投目から3 投目までやり先が上がった。力のない投げになってしまった。

練習投擲が良かっただけに、1 投目が良くなかったことで焦ってしまった。3 回の試技の中で修正できるように日々の練習に取り組むたい。

女子やり投 決勝

2位 山崎香織(1) 48m31

1 投目は、振り切りはよかったが、クロステンポが遅くラインぎりぎりまで出たため、体が潰れた。

2 投目は、クロステンポの修正と、ラストクロスの左脚を曲げないことを意識した。槍の方向と力の方向が合っており、良い投げであった。

4 投目は、助走が合わず手投げになった。

5 投目は、助走が合わず、またスピードが疲れで落ちていたため、上半身のパワーで投げようとして、重心が左にぶれた。

6 投目は、完全に勢いを失った投げになった。

全体を通して、助走のスピードが遅いことと、6 投を投げきる体力がなかった。走力と、スピードを落とさない技術を身につけることに重点をおいて、今後練習していきたい。

◎自己ベスト更新者一覧(3/1~5/21)

- | | |
|--|--|
| ・男子 100m
鈴木健太(2) 11"49(-1.3)(東北インカレ)
白鳥海知(4) 10"92(-0.5)(東北インカレ) | ・男子 400mH
加地拓弥(2) 53'33(東北インカレ) |
| ・男子 200m
岩波発彦(4) 22"98(+1.7)(仙台大競技会) | ・男子 10000mW
中川岳士(M1) 42'38"64
(国士舘大学競技会) |
| ・男子 1500m
谷口尚大(2) 4'14"04(仙台大競技会) | ・男子 10kmW
中川岳士(M1) 42'28"
(全日本競歩輪島大会) |
| ・女子 3000m
橋本悠実(2) 11'23"75
(長距離短距離フィールド競技会) | ・男子走幅跳
藤井大輝(4) 6m83(福島大競技会) |
| ・男子 5000m
田沼怜(2) 16'04"35(学連春季)
若林郁生(3) 17'09"33(学連春季) | ・男子棒高跳
藤井大輝(4) 4m20(東北インカレ) |
| ・女子 5000m
橋本悠実(2) 19'21"75(東北インカレ) | ・女子走高跳
中村真璃子(4) 1m67(学連春季) |
| ・男子 110mH
鈴木健太(2) 15"88(+1.3)(仙台大競技会) | ・女子砲丸投
渡邊朝美(M2) 10m57(仙台大競技会) |
| | ・女子やり投
山崎香織(1) 48m31(東北インカレ) |

○今後の予定

- ・6月17日 北海道大学対東北大学陸上競技定期戦 (弘進ゴムアスリートパーク仙台)
- ・6月30日~7月2日 第40回北日本学生陸上競技対校選手権大会
(福島・とうほうみんなのスタジアム)
- ・7月28~29日 全国七大学対校陸上競技大会 (札幌・厚別公園陸上競技場)

○編集後記

今シーズン最初の対校戦となる東北インカレが終わりました。全カレ出場者は去年より1人減ったものの、多数の入賞で大いに健闘しました。東北インカレの正選手に選ばれなかった選手も各種記録会で好記録を出し、チームは勢いづいてきました。

今後は北大戦、七大战に向けて部員一同、一層努力して参ります。応援よろしくお願いたします。

文責 副務 堀拓磨

東北大学陸上競技部三秀会
〒980-0815 仙台市青葉区花壇 2-1
東北大学評定河原グラウンド内
hukumu_tohoku_ob2sin@yahoo.co.jp